

問題文

問題文

当社は標準原価計算を採用している。資料に基づいて以下の差異の計算と分析をしてください。

なお、製造間接費差異は公式法変動予算を前提とし、能率差異は変動費と固定費からなるものとする。

資料

1、標準原価カード

標準直接材料費：@600（標準単価）×3kg（標準消費量）=1,800円

標準直接労務費：@900（標準賃率）×3時間（標準直接作業時間）=2,700円

標準製造間接費：@2,400（標準配賦率）×3時間（標準直接作業時間）=7,200円

製品一個あたりの標準原価 11,700円

2、公式法変動予算データ

変動費率：@1,000円

月間固定費予算額：2,100,000円

月間基準操業度：1,500時間（直接作業時間）

3、生産データ

月初仕掛品 200(50%)

当月投入 500

月末仕掛品 250(40%)

完成品 450

4、実際原価データ

直接材料費当月投入額：@605円×1,550kg=937,750円

直接労務費当月消費額：@910円×1,400時間=1,274,000円

製造間接費当月実際発生額：3,600,000円

解答欄

直接材料費差異：

價格差異：

數量差異：

直接勞務費差異：

賃率差異：

時間差異：

製造間接費差異：

予算差異：

操業度差異：

能率差異：

解答

直接材料費差異：37,750（借方差異）

 價格差異：7,750（借方差異）

 數量差異：30,000（借方差異）

直接勞務費差異：59,000（借方差異）

 賃率差異：14,000（借方差異）

 時間差異：45,000（借方差異）

製造間接費差異：360,000（借方差異）

 予算差異：100,000（借方差異）

 操業度差異：140,000（借方差異）

 能率差異：120,000（借方差異）